

障がい当事者部会 報告書

会議名	第2回 障がい当事者部会		
開催日時	令和6年2月9日（金） 14時00分から16時00分		
開催場所	板橋区役所 北館9階 大会議室A		
出席者数	7名（欠席2名）	傍聴者数	2名

報告事項（3件）

議題名	令和5年度の地域生活支援拠点等（以下、拠点等）の整備状況について
概要	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に開催した地域生活支援拠点等運営会議（以下、運営会議）にて協議した内容及び拠点等に関連した事業の進捗状況を報告した。 拠点等の各機能における、区が目指す姿、現在の取組、今後の取組・課題について説明した。
主な意見・質問/回答	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議のメンバーに障がい当事者を入れてはどうか。 →現在、拠点登録事業所をはじめ、徐々にメンバーを拡充している状況である。時期を見ながら、当事者の方への出席をお願いしたいと考えている。 緊急時に受入が必要な障がい者の人数は、どの程度の数を想定しているのか。また、支援が必要な人数が多かった場合、受入を拒否するのではなく、人数に対応できるように社会資源を増やしていく方向性なのか。 →具体的な人数の実態把握はできていない状況。多くのニーズがあった場合でも対応できるよう、緊急時の受入体制を整えていく。体制づくりの一つとして、安心支援プランに登録している人は緊急時に対応できるような仕組みを整えている。 安心支援プランについて、民間事業所に通所している方や、必要と認識していない方にも、広く周知してもらいたい。 →これまで障がい福祉事業所を中心に周知を図ってきたが、区民への周知も並行して進めていかなくてはならないと考えている。 精神障がい者にも対応した包括的ケアシステム（以下、にも包括）について、精神障がい「にも」と言われると、これまで対応していなかったのか、と感じる。重複障がいの方も含め、地域での受け入れ方をもっと深く考えていただきたい。 →これまで、精神障がいは健康福祉センターが主に対応してきた経緯があるが、保健分野と福祉分野の連携が必要ということで、「拠点等」と「にも包括」も連動して取組んでいく方向性である。 障がい者の高齢化も進むことを見据え、介護保険との連携も考えていただきたい。 →今後、高齢分野とも連携していく方向で取組んでいく。
今後の方向性	今後も運営会議での協議内容や、各機能における取組の進捗状況を、適宜、部会に報告していく。

議題名	緊急時に想定される課題の整理
概要	令和5年度第1回障がい当事者部会で抽出した緊急時の課題が、拠点等の5つの機能のうち、どの機能に対応するのかを整理した。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 精神障がいの症状により、自宅から出られない本人自身が、親が動けなくなった時にどうすればよいのか、不安を抱えている。本人だけではなく、親が亡くなったときにどうすればよいのか、支援の手立てを区として整備してもらいたい。 →にも包括では、訪問看護をはじめ、医療機関もネットワークに入れて地域の体制を整

	<p>えている。こうした繋がりから、家庭の状況や困難な状況をキャッチできるよう、引き続き体制整備を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時における情報支援の確保が重要。聴覚障がい者が緊急搬送された時や、入院した時など、手話通訳者がいない、筆談ができない場面では、聴覚障がい者は自分の思いを伝えることができない。自身や、友人も、つらい経験がある。情報保障の観点から、入院時と緊急時は似ている部分があると思う。課題の一つとして、とらえてもらいたい。 ・NPO 法人や当事者、保護者団体をはじめ、さまざまな人たちが一生懸命努力して取り組んでいる。事務局がもっと情報を収集し、区としての動きを考えてもらいたい。
今後の方向性	今後も拠点等で整備している項目の進捗状況を報告し、緊急時における対応に抜け漏れがないよう体制整備を進めていく。

議題名	権利擁護部会「事例勉強会」について
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月及び12月に開催した事例勉強会について、事例概要と参加者から出された主な意見を報告した。 ・事例勉強会に出席した障がい当事者部会員からの感想を共有した。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・何気ない行動が差別になってしまうこともあると改めて感じた。差別の事例を区の広報などで区民に広げられるとよいと思う。 ・今は中学生から精神障がいのことについて勉強している。どの事例も、こうした勉強の積み重ねがあれば、障がい特性の理解ができ、解決できたいのではないかと思った。お互いに理解することが必要である。 ・障がいのカテゴリーや、親としての立場だけで考えてしまうことがあるが、支援事業者など、親以外の立場からの話にも耳を傾けるいい機会になった。
今後の方向性	令和6年度の事例勉強会の開催形態が決定後、障がい当事者部会にも情報を共有する。

協議事項(2件)

議題名	各部会からの質問について
概要	<p>他部会から寄せられた障がい当事者部会の部会員に聞きたいことを議論する。今回は、以下3つの質問を題材とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 障がい者の就労において、就労支援事業所や就職先の企業に期待することは何ですか。 ② 成年後見制度について、障がい当事者部会員の方はどの程度知っていますか。 ③ 成年後見制度の利用にあたって、課題と感じていることは何ですか。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・就労先の支援担当者が変更になるときに離職しやすい。環境が変わるタイミングのフォローなど、定着支援を手厚くしてもらいたい。 ・視覚障がい者が就職できる職種が少ない。本人の見え方に合わせたサポートやIT機器の導入があれば、事務的業務の遂行も可能という認識を深めてもらいたい。 ① 精神障がい者は、就職しても離職してしまうことが多い。また、会社に障がいがあることを伏せて就職している方もいる。 ・精神障がいや高次脳機能障がいがある方には易疲労性があるため、こまめな休憩や時短勤務等を考慮してほしい。 ・障がいの特性によって、長時間座っていること、目を見て話すことが苦手な人に対する、面接の配慮が必要。高校卒業時に就職につながっていないと、引きこも

	<ul style="list-style-type: none"> りになってしまうケースもある。 ろう学校は、聴覚障がい者だけの閉鎖的な環境になりやすい。中央ろう学校では、健聴者の感じ方や社会常識について学ぶ時間がある。このような経験がないと、本人はうまく人に説明ができず、会社になじめないこともある。 高次脳機能障がい者は、一人一人の障がいが異なるので、仕事の内容は決めつけずに、間口を広く設けてほしい。
②	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい、聴覚障がい者の団体内では、制度の名称は知っているが、詳しい内容までは分からない、という方が多いと思う。 団体として勉強会を定期的開催したり、個別に相談に応じることで制度に関する理解を深める努力をしている。
③	<ul style="list-style-type: none"> 他人に財産を管理されることに対し、「お金をとられてしまうのではないか」という不安がある。成年後見人の信頼性はどのように担保されているかが分からないと不安。 一度利用を開始すると、報酬が継続的に発生することと、申立に必要な書類が多く、手続きが煩雑という印象がある。 後見人の報酬を裁判所が決めるという部分がネックに感じる。
今後の方向性	<p>質問に対する意見については、質問が出された各部会へ報告する。</p> <p>適宜、他部会から障がい当事者部会の部会員に伺いたいことがあれば、当部会の議題として取り上げていく。</p>

議題名	部会間の連携について
概要	障がい当事者部会として、他部会との連携を強化していくのか、または障がい当事者部会内での相互理解を深める取組を行うか、部会としての方向性について意見を聞いた。 ※時間の都合上、部会内では議論ができなかったため、部会終了後にメールにて意見を収集した。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 各部会間の連携については、現状のとおり、他部会からの質問に答える、事例勉強会を通じた権利擁護部会との関りを継続していくのが良い。 年2回だけの部会内では、部会員同士の相互理解を深めるには難しいのではないかと考える。部会とは別での交流会等があれば参加したい。 障がいの種別を超えた話ができる場として、懇談会のようなものを検討してもらいたい。 障がい者差別や偏見を解消するためには、相手を深く知り、適切な対応方法や接する上での留意点などを、障がいの種別や場面に応じて、複数のパターンを知っておくことが重要だと思う。他部会と連携し、このような理解を深められる取組ができればよい。
今後の方向性	部会員からの意見を踏まえ、事務局としての部会の方向性を検討し、次回の部会で報告する。

その他(2件)

議題名	部会員からの意見・情報提供
概要	<ul style="list-style-type: none"> 精神障がい者は、障がい福祉サービスから抜け落ちてしまっている部分があると感じている。障がい種別に関わらず、障がい程度に応じて支援が受けられるようになってほしい。 東京都聴覚障害者連盟で、当事者参画によるバリアフリーハンドブックを作成している。令和6年3月には発行される予定なので、ぜひご覧いただきたい。